

あべのハルカス美術館 2025年1月～2026年3月 展覧会ラインアップ

会期	2025年1月18日(土) ～ 3月16日(日)	4月5日(土) ～ 6月22日(日)	7月5日(土) ～ 9月7日(日)	9月27日(土) ～ 12月14日(日)	12月27日(土) ～ 2026年3月1日(日)
展覧会名	生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界	空想旅行案内人 ジャン=ミッシェル・フォロン	深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ	手塚治虫 ブラック・ジャック展	密やかな美 小村雪岱のすべて

【詳細】

生誕140年 YUMEJI展 大正浪漫と新しい世界

会 期：2025年1月18日(土)～3月16日(日)

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

開催趣旨：大正浪漫の象徴であり、「夢二式美人」で一世を風靡した竹久夢二(1884-1934)は、明治から昭和前期にいたる日本近代芸術・文化の円熟した魅力をもっとも醸し出した芸術家でした。夢二は、絵画だけでなく雑誌や楽譜、本の装幀、日用品のデザインなど多岐にわたるジャンルで活躍し、彼の作品は、今もなお私たちを惹きつけてやみません。本展は、夢二郷土美術館が所蔵する選りすぐりのコレクションを中心に、最新の研究に基づく新たな視点から選んだ作品や資料約180点により、夢二の画業と魅力をご紹介します。是非会場で夢二の世界を心ゆくまでお楽しみください。



《秋のいこい》
1920(大正9)年 紙本着色
夢二郷土美術館蔵



《西海岸の裸婦》
1931-32(昭和6-7)年 油彩、カンヴァス
夢二郷土美術館蔵



《アマリリス》
1919(大正8)年頃 油彩、カンヴァス
夢二郷土美術館蔵

空想旅行案内人 ジャン=ミッシェル・フォロン

会 期：2025年4月5日(土)～6月22日(日)

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

開催趣旨：ジャン=ミッシェル・フォロン (Jean-Michel Folon 1934-2005) は、ベルギーが生んだユニークなアーティストです。詩的でユーモアに富み、やわらかな色彩と軽やかなタッチで表現されたフォロンの作品は、見る人を空想の旅へと連れ出してくれるとともに、この世界で起きているさまざまなことからへの気づきをもたらす、豊かなメッセージ性をももたえています。フォロンの没後20年、そして彼が生前に設立したフォロン財団の25周年を記念する本展は、絵画、彫刻、ポスターなどの多彩な作品約230点によって、そのあたたかく深遠な魅力をご紹介します。



《秘密》
1999年 ブロンズ
©photograph by Fernandez



《大天使》
2003年 水彩



《グリーンピース 深い 深いトラブル》
1988年 ポスター

*すべてフォロン財団蔵
©Fondation Folon, ADAGP/Paris, 2024-2025

深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ

会 期：2025年7月5日(土)～9月7日(日)

共 催：読売テレビ、読売新聞社

開催趣旨：金魚に魅せられ、創作を続ける美術作家・深堀隆介。透明樹脂にアクリル絵の具で何層にも重ねて描く「2.5Dペインティング」とも称される斬新な技法により立体感のある金魚を作り出してきました。その作品は、まるで目の前に水があり、命のある美しい金魚が泳いでいるかのような迫真性を観る者に与えます。水面の揺らぎの中にあるのは虚か実か、幻か現か。深堀は自身の作品をまるで生きているかのように「見せる」一方で、それが命を持たない絵の具の積層であるという事実と正面から対峙します。深堀の作品には、幻影と物質の同居というリアリズムにおける根源的な命題が横たわっているのです。本展では初期の立体作品から、絵画、映像、大規模なインスタレーションなど新作を含む作品約300点を一挙ご紹介。深堀が一貫して取り組んできた金魚の造形にあらためて光をあて、描くこと、リアルであることに対する作家の思想に迫る展覧会です。虚実の狭間をたゆたうように私たちを誘う、〈金魚繚乱〉の世界をご覧ください。



《金魚酒 命名 鈴夏》2021年



《百濟》2004年



《大渦》2010年

